

## 安倍政権の下で政治が壊れ、民主主義が壊されている

社会民主党 幹事長 吉川 元

今の安倍総理、日本語がどんどん壊れている。例えば沖縄の辺野古新基地建設問題。昨年の沖縄県知事選挙で新基地建設に反対する玉城新知事が勝利した。その際に安倍総理が言った言葉は「今回の知事選挙の結果を真摯に受け止めて沖縄県民の心に寄り添う」。ところがその後が続くのは「しくしくと新基地建設を進める」です。この感覚というのは日本語を使う人間としてはあり得ない。



吉川幹事長

また、先般の衆議院予算委員会で「第三者委員会の報告書は読んだのか」と質されたところ、安倍総理は「読んでない」と答え、「総理大臣は森羅万象に通じていなければいけないので報告書は読んでいない」と述べた。「総理大臣は、森羅万象あらゆることに通じている訳ではないので報告書は読んでいない」というのならわかるが、日本語としてまったくでたらめです。こうしたことが何度も続いている。政治が壊れ、民主主義が壊れ、日本語まで壊れていく。それが今の安倍政権です。こういう政権は、一刻も早く倒さなければならない。

消費税についても、10月に消費税増税2ポイント上げるけれども、軽減税率を上げてポイント還元すると実質的な消費税率は3%になる。これを安倍総理は「2ポイント上げると消費税が3%に下がる」という。ほぼ意味不明。

この消費税、社会民主党は社会党の末裔ですが、当時社会党は消費税に反対した。ただ導入された以上、「消費税は全額社会保障に使える」と言ってきた。その後、いつの間にか言葉がすり替わって「社会保障は消費税でみる」というふうになって、年金や医療・介護だけでなく子育てや教育にもあてられる。消費税は導入以来、税率が増えてきた。ところが一方で法人税が下げられている。これでは消費税をいくら上げても、安心の社会保障はつくられない。社会保障をどうしていくのか。政治に問われている。7月参議院選挙では、立憲民主党や国民民主党とともに野党共闘をしっかりとつくりつづけていかなければならない。社会民主党も力一杯頑張る。